

日本経済新聞夕刊 連載

あすへの話題 第十三回

辺境のガンジー

元世界銀行副総裁

シンクタンク・ソフィアバンク シニア・パートナー

西水美恵子

「あすへの話題」 第十三回 / 辺境のガンジー

ガンジーの非暴力・不服従の政治思想と手法は、世界中の植民地解放、民主化、公民権運動に影響を与え続ける。ダライ・ラマ14世、アウン・サン・スーチー女史、キング牧師らが知られるが、ガンジーが心から敬愛した友で「辺境のガンジー」と呼ばれた人がいた。現パキスタン北西辺境州パシュトウーン族出身のカーン・アブドウル・ガフアー・カーン氏（1890・1988年）。ガンジーと友に印パ分離に反対したため、独立後は母国の迫害を受けた悲劇の人だった。民の目覚めは教育と女性解放にと尽力する一方、10万人以上のパシュトウーン人を動員して非暴力・不服従を武器とする「神の召使い」という組織を築き、印パ独立運動に大きな貢献を果たした。

パシュトウーン族は人口約4000万人、アフガニスタン（人口の約5割）とパキスタン（人口の約2割）を中心にイランやタジキスタンも含む地域に住み、世界最大の家父長制民族である。パシュトウーンワリという厳しい掟で知られ、中でも「目には目を、歯には歯を」の復讐を必然とした為、恐れられた。古代から武勇に秀でる民族でもあり、ギリシャのアレクサンダー大王を驚嘆させ、アフガニスタンの英国植民地化を妨げ、旧ソ連占領軍撤退の要ともなったが、近年はタリバンの汚名を被る。この民族に非暴力・不服従を武器とせよと諭し、希望を与え、奮起させたのは超人的な偉業だった。

パキスタンで自宅監禁中、他界。アフガニスタンに埋葬された。その時、アフガン戦争は停戦となり、数万人の葬列が国境カイバーク峠を越えて延々と続いた。平和を知らない民の心を司る「辺境のガンジー」。その化身到来を、唯々祈る…。

著者紹介

西水 美恵子（ にしみず みえこ ）

1975年、米ジョンズ・ホプキンス大学大学院博士課程修了後、プリンストン大学助教授（経済学）。80年に世界銀行入行。97年、南アジア地域担当副総裁に就任。2003年に退職。現在は独立行政法人経済産業研究所コンサルティングフェロー。07年に、シンクタンク・ソフィアバンク シニア・パートナー就任。著書に『貧困に立ち向かう仕事』。

著者へのご意見やご感想は、下記アドレスにお送りください。
個人メールアドレス nishimizu@sophiabank.co.jp

本稿は、西水美恵子氏が、二〇〇六年九月三十日付の日本経済新聞夕刊に、寄稿したものです。

著作権は、著者に帰属しますが、配布は自由に行っていただけます。